

第7期米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

○意見の概要と意見に対する市の考え方・対応方針（4件）

No	意見の概要	市の考え方・対応方針
1	<p>○地域包括支援センターの機能強化について</p> <p>地域包括支援センターへのリハ職員（理学療法士など）の配置や他職種による情報交換会の具体的なやり方などどのように計画しているか。</p> <p>現状ではそれぞれの地域包括支援センターによりリハ職員の関わりに差があるようだが、リハ職員の関わりが広がることを期待する。</p> <p>また、リハ職員の関わりが見える化へ各地域包括支援センターへのアンケート調査などご検討してほしい。</p>	<p>地域包括支援センター（以下「センター」と表します。）へのリハビリテーション職員（以下「リハ職員」と表します。）の配置については、現時点では配置の計画はありません。なお、センターへのリハ職員の関わりの広がりについては、一例としてセンター職員とリハ職員が自由に意見を交わせる場として、「ケアカフェ」等を定期的実施することなど方法を検討したいと考えます。</p> <p>また、各センターとリハ職員の関わりへのアンケート調査等については、毎年度実施している「センター運營業務ヒアリング調査」において、具体的な聴き取りを行いたいと考えます。</p>
2	<p>○地域住民への普及啓発について</p> <p>在宅医療介護の連携推進（もしもの時のあんしん手帳）や介護支援ボランティア制度など継続した地域住民への啓発が必要と思われるが、理学療法士が地域リハビリテーション活動支援事業などで具体的にできることなどがあるか。</p>	<p>現在、在宅医療・介護の推進や介護支援ボランティアの登録において協力を呼びかける地域住民への普及啓発活動は、公民館健康講座や地域活動の場で継続的に行っているところでありますが、鳥取県理学療法士会により地域リハビリテーション活動支援等で現場指導いただいた際や、研修等の機会でも周知いただければ、さらに普及効果が上がるものと考えております。引き続き、多職種団体等との協働を図り、取り組んでまいります。</p>

<p>3</p>	<p>○介護予防重度化推進について</p> <p>米子市ではまだ今までのような受け身の介護予防事業しか取り組みがなされていないように感じる。積極的な住民主体型の介護予防(例えば日本理学療法士協会が推奨しているシルバーリハビリ体操など)のシステムを取り入れることなども検討してはどうか。</p>	<p>現在、本市では運動機能向上事業(「がいなみっく予防トレーニング」「ふらっと、運動体験!!」)を委託するサービス事業所において理学療法士等の専門職のご指導の下、より効果的に運動習慣に繋がるよう取り組んでおり、また、地域での活動においては、健康づくり地域サポーターが主体となって「やって未来塾」を立ち上げ、積極的に健康増進に向けた運動に取り組んでいるところです。</p> <p>本市としては、現在の取組みが継続されるべく支援体制の充実を図っていきます。</p> <p>日本理学療法士協会推奨のシルバーリハビリ体操等の全国で行われている事業を参考にしながら、本市において効果的な施策を関係団体と協議させていただきながら検討していきたいと思ひます。</p>
<p>4</p>	<p>○弓浜半島の休耕地を農業生産だけでなく、健康増進、社会参加の場、教育、インバウンドに利用すべきである。</p> <p>高齢者が日常的に参加できる、社会参加しながら、健康増進ができる"場"の提供が必要と考えられ、弓浜地区の休耕地は大きな資源と考えられる。</p> <p>休耕地の農地化、計画的農業生産、温室を建設し、温室を集合場所として、買い物、観光に出かける社会参加療法を行う。</p> <p>関係機関の協力を仰ぎながら幼児、小学生から高校生、医学生、看護学生の参加を促すとともに外国人も呼び込める発展的な施設とする。</p>	<p>高齢者が生きがいを感じながら、充実した生活を送るために、社会参加できる環境づくりを進めていくことは非常に重要なことであると考えています。</p> <p>現時点では、温室の新規建設は計画しておりませんが、社会参加の場として、既存の施設だけではなく、耕作されていない農地についても貴重な社会資源と捉え、その利活用については、今後、関係部署等と協議しながら検討していきたいと思ひます。</p> <p>なお、ご提案の中の、高齢者のみならず障害のある方や子供など幅広い世代の方々と一緒に参画する視点は、各事業の展開において大事にしてまいりたいと思ひます。</p>